

# 山口市医師会女性医師部会と私

担当理事 淵上 泰敬

「女の子は3歳からちゃんとした人類、完全な存在。子孫を増やすために添加物つけて作ったものが男で、男は不完全な存在」と昨年12月11日にタモリが言っていました。確かに男を決定づけるY染色体は5100塩基対で、遺伝子数は78。それに対してX染色体は1億6300万塩基対、遺伝数は1098と、圧倒的な差があります。Y染色体は相同染色体間での組換えなどができないため、遺伝情報を維持しやすいX染色体と違って、突然変異などで遺伝情報を失い、小型化するそうで、巨大なメスの身体に癒合し、小さな突起状になったアンコウのオスが思い浮かびます。アマミトゲネズミのオスはY染色体が消失し、XO型とのことで、添加物さえないようです。やがて悲しきY染色体…。短くなるY染色体もさることながら、内分泌かく乱物質の影響でメス化する動物の報告や、母体に長年蓄積されたこのような物質が最初の胎児にほとんど移行するため、Y染色体によるアンドロゲン・シャワーでの脳の男性化が不十分になり、今はテレビでよく見る女性化した若い男性が巷にあふれ、いずれそのような男性医師が増えてくるかも…。

ともあれ、人類の半数は女性です。医師は仕事上、重責を担うことばかりですが、加えて女性は家事、出産、子育てとより重い責任を担う務めもあります。当直、残業、救急など自分の時間がキープできないことも多く、女性の少なかった職業ですが、女子学生も増えて、山口大学では半数近くを女性が占める学年もあるとか。医師の半数が女性であっても不思議ではない時代になりました。増えている女性医師のキャリアアップ、労働環境向上のために、各地域で女性医師の会が誕生していますが、私は担当理事として山口市医師会女性医師部会には平成22年10月1日の設立準備委員会から関与させていただきました。平成22年12月17日に、野瀬橘子先生を会長として山口市医師会女性医師部会が発足し、平成23年6月11日には山口大学教授 松田昌子先生をおよびし、山口市医師会女性医師部会総会が開催されました。松田昌子先生は私

が山口大学在学中にポリクリでご指導を賜ったことがあります。留学から帰国されたばかりで、美人で明るく、爽やかなイメージで、「心不全の定義は？」と質問され、「心機能が低下し、全身の不調をきたした状態」などとあいまいに答え、丁寧に教えてもらった記憶があります。松田教授の基調講演では日本の女医第1号 荻野吟子さんのお話に始まり、約10年前より山口大学医学科卒業生の3割が女性になっていること、男女共同参画意識の高まりから、労働力としての女性医師の掘り起こしなど、明快なご講演でした。

平成24年1月5日には午後7時より「やご家」で山口市・吉南医師会女性医師部会合同研修会・懇親会がおこなわれました。吉南医師会からは田邊完会長、田村正枝副会長も参加されました。山口赤十字病院内科部長 國近尚美先生による「肺の生活習慣病 COPDの診断と治療」、耳鼻咽喉科ののはなクリニック院長 兼定啓子先生の「乳幼児の難治性中耳炎」のミニレクチャーがありました。國近先生のご講演では、COPDは全身併存症が多く、世界の死亡原因の第4位であること、日本では推定530万人の患者がおり、治療を受けているのは22万人とごく一部であること、禁煙が肺の破壊を防ぐ唯一の方法であり、長時間作用性抗コリン薬、長時間作用性 $\beta$ 2刺激薬、安全域が広い吸入ステロイドによる管理、口すぼめ呼吸など、基礎から最新の治療まで簡潔に教わりました。兼定先生のご講演では肺炎球菌、インフルエンザ菌、Moraxellaが急性中耳炎の三大起炎菌であること、肺炎球菌は組織破壊が強いので、アモキシシリンなどのペニシリン系を第一選択薬とし、第二選択薬としてインフルエンザ菌を対象としてメイアクトなどを使い、難治性では鼓膜をレーザー切開し、短期で自然に抜ける鼓膜チューブの挿入、最近では溶連菌、RSウイルスによるものが増えているとお話がありました。豊富な臨床経験に基づく、わかりやすい内容でした。両先生のご講演後に、懇親会に移りましたが、田村博子先生の司会進行のおかげで

盛り上がり、会話もはずみ、お開きとなったのは11時でした。懇親もかなり深まったものと思います。女性医師が働きやすい職場はこれからの新人男性医師にも働きやすいでしょう。今後も市医師会としてサポートしていければと思います。

